



利便性の高い岡山駅地下駐輪場についての具体的な計画は。

答 歩行者・自転車・公共交通のための道路空間の優先的な構築や、自転車道の整備、駐輪場やレンタサイクルの拡充などを事業プログラムに位置付けている。平成20年1月から自転車レーン整備や、空き店舗を活用した駐輪スペース設置などの社会実験に取り組んでいる。

ゆうあいクラブ

●政令指定都市としての活動はどのように

問 政令市移行で大都市制度をどう推進するのか。ローカルサミットは開催するのか。

答 政令市は、地方分権の進展や地域の発展をリードする役割を期待されており、指定都市市長会で国への政策提言及び要望活動を行っている。本市もこの市長会を含め、他の政令市と連携して発言していきたい。

また政令市が直面する重要課題や施策に関する意見・情報を交換するローカル・サミットは、政令市・岡山をPRする絶好の機会であり、平成21年度開催に向け調整している。

●今後の住宅政策と市営住宅の再整備

問 住宅政策の一環としての「市民住宅」の考え方と、

今後もNPO、商店街、大学などと連携し、都市交通戦略の具体化に向けた検討を行う。

●消費者被害撲滅へ体制を強化

問 消費者行政の体制強化への取り組みは。

答 平成21年度から「岡山市消費生活センター」を設置し、市民の相談窓口とするとともに、相談員の資質向上に向けた研修の充実を図る。

また、地域のさまざまな団体に構成されている安全・安心ネットワークと連携し、消費者被害防止に効果のある出前講座や、消費者リーダーの育成に重点的に取り組む。食品偽装をはじめとする不適正事業者については、消費者団体と協力し監視強化を図る。



新たな手法での再整備を検討市営住宅の再整備の方針は。

答 これからの住宅政策は、子育て世帯や高齢者世帯に配慮し、地域コミュニティの再生につながるべきではない。このため平成19年度には「岡山市住宅基本計画」と「岡山市営住宅ストック総合活用計画」を策定し、14年度から中断していた市営住宅の整備を行うこととした。また単なる建て替えではな

く独自の「市民住宅」の供給も併せて行う方針だ。

まず、さくら住座と門田白鳥住座を対象に、新たな手法で再整備を行う。

●ごみ出しマナー向上へ巡回指導

問 ごみ出しマナーが悪い人を特定して指導できないか。

答 家庭ごみは適正に分別し、定める日時に所定の場所に出さねばならず、不適正な場合は市から排出者に改善勧告できる。特にマナーの悪いステーションでは、ごみ袋の中身から排出者を特定し指導することも視野に、巡回指導していきたい。

●電子入札の効果

問 入札制度改正で電子入札を導入した際の効果は。

答 平成21年4月から、一部の一般競争入札で郵便入札を廃止し、電子入札を導入する。入札がインターネット上で行われるため、事務の透明性・公平性の向上、受注者の移動経費が減少することによるコスト縮減、行政事務の効率化などの効果が考えられる。

●緑化フェア後の取り組み

問 緑化フェア終了後、公園と体験学習施設はいつから使えるのか。フェアを記念した行事を継続的に行う考えは。

答 (仮称)西大寺南ふれあい公園は、フェア終了後、さらに緑を豊かにするための植樹や建物の仕上げ工事を行い、平成22年春には利用できるようにしたい。体験学習施設には花・緑の相談窓口を設置し、さまざまな事業を行うことで、市民の緑化への関心や緑豊かなまちづくりへの参加意欲を高めていく。フェアのメモリアル的なイベントの実施も検討したい。